

## 第2WG 評価コメント

### 評価者のコメント

#### 事業番号2-48 海外での各種会議等出席旅費

更なる同行者数の見直しなど経費削減を目指す。

必要な人だけ行くべき。

この手の種類の案件は、トップダウンで削減目標を決めなければ削減できない。政治(内閣)のリーダーシップで削減目標として15%程度を定めるべき。

政治家主導の外交を実現するため、また、コストを削減するため、随行員の縮減を図るべき。また、ITの利用も積極的に行うべき。

外務省出席者が部局網羅的で必然性が乏しいと見受けられる。

大名行列のような随行は見直すべき(1/2)。在外公館会議は直ちに見直し。サブスタンスを議論するためには担当省庁に枠を譲るべき。

政治主導を明快にするためにも随行員が霞ヶ関からぞろぞろ付いていくような構図は避けたほうが良い。ロジ担当は現地大使館を中心に組めばよいのではないか。

ぞろぞろお供する必要はない。幹部職員と若手職員の良きバランスのチームを作って総理や大臣をサポートされたい。大臣から随行員までの適正化。

具体的な削減額・率については知見がないが、主体である外務省ですら目に付く非効率な点があれば、当然早急に改善していくべき。

必要性、努力は伝わる。しかし、全体の行政コストの削減は避けられない。政権も理解を示して欲しい。大使会議を中心にやり方を検討して欲しい。

首脳外交は極めて重要である。総理・外相の出張を増やす一方、各回のコストは削減すべき。是非、外交成果をあげていただきたい。

在外公館長会議は年に1回程度はよいと思う。問題は回数ではなく、会議の中身である。今日一日出た問題(ロードマップがないこと、効果検証できていないこと、戦略をもてないことなど)について話し合うべき。海外での会議費はコスト見直しが必要

### WGの評価結果

#### 海外での各種会議等出席旅費

**予算要求の縮減(15%程度)**

(廃止 0名 自治体/民間 0名 予算計上見送り 0名)

予算要求縮減 11名 : a.30%を縮減 1名 b.15%を縮減 6名 c.その他 4名)

## とりまとめコメント

---

大変財政が厳しい中であり、15%の減額でこの出席旅費をまかなっていただきたい。政治主導で、各省庁の連携をとりながら重複を省いていただくとともに、ITの積極的な活用も含めて頑張っていただきたい。